



SDGs×ESD レポート

Vol.7

ESDは (Education for Sustainable Development) 略称で「未来を変える人づくり」を意味します。

発行：NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)



未来につなぐふるさと基金 市民参加型プログラム (3回シリーズ)



第1回 田んぼの生きもの調査 in 谷当里山 (千葉県) 報告

ESD-J 後藤尚味



9月13日(日)に千葉市にある谷当里山の谷津田にて、コロナウイルス感染拡大予防に配慮しながら、田んぼの生きもの調査および写真教室を開催しました。千葉県在住者に限定したにも関わらず、小中学生とその保護者計13名にご参加いただきました。前日までの猛暑と大雨が嘘のように天候に恵まれ、全プログラムを無事に実施することが出来ました。

キヤノンマーケティングジャパン(株)による写真教室は、最新式デジタル一眼レフカメラを1人1台貸与し、自由に撮影できるという魅力的な企画でした。最初に写真講座で講師から基本的な操作を教わりました。形は一眼レフでも、操作はスマホと似ており、子供もすぐに使いこなしていました。皆、嬉しそうに首からカメラをぶら下げて、草の間に隠れている虫や、水槽に入れた水生生物を接写するなど、教わった技術を駆使し、沢山の写真を撮影しました。最後に自分のベスト写真をA4サイズに印刷して参加者同士で披露し、講評をいただきました。大判写真とその日撮影した写真を収めたSDカードは参加者全員にプレゼントされました。



最後のまとめに、谷津田の恵みと私たちの食事との繋がりを話し頂き、それを具現化している「いすみ市における学校給食全量有機米の取り組み」を紹介していただきました。

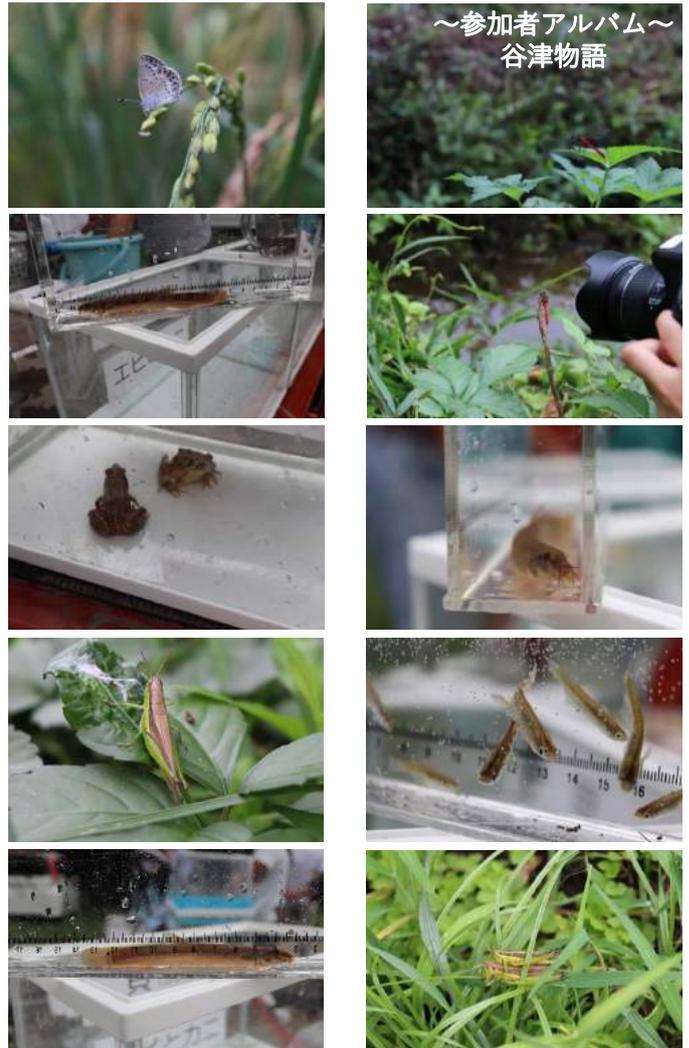
参加者の殆どが、生物多様性への関心が深まり、またこのようなイベントに参加したいという感想を寄せてくださいました。



田んぼの生きもの調査は、房総野生生物研究所所長の手塚幸夫さんを講師に実施しました。始めに千葉県の谷津田の特徴と、草地を歩くときの注意点等を伝え、その後は自由に田んぼ周辺の生きもの調査を行いました。すぐに方々から「あ、ドジョウだ!」「カエルだ!」という叫び声が聞こえて来ました。この谷当の谷津田は、耕作放棄地をNPOバランス21が再生して以来、無農薬でお米を育てているため、豊富な生物種を観察する事が出来ました。昼食休憩の時間まで、子供は勿論のこと保護者も童心に返り、泥まみれで生きものを捕獲し、撮影を楽しみました。休憩中に捕獲した生きものを観察しやすい様に専用の透明コンテナに移し、軽トラの荷台に展示しました。生き物を詳しく調べたい人には絵本や図鑑を用意し、自由に閲覧出来るようにしました。



房総野生生物研究所所長 手塚幸夫さん



～参加者アルバム～ 谷津物語

今回は、ハンバーグレストラン「びゅりドンキー」を運営する株式会社アレフさんによる安全・安心なファミレスについてのワークショップです。詳細はP4に!



第6回 地域担当理事報告シリーズ 【ESD for 2030】を踏まえたESDの取り組み

「北海道の教育におけるESDの取り組み状況」

北海道担当理事 中田 和彦

北海道には6つの国立公園と5つの国立公園、12の道立自然公園が指定されるなど、積極的に保全すべき広大なフィールドが存在することから（その総面積は北海道の10%を占めており、広島県や兵庫県とほぼ同じ広さ）、ESDの取り組みの多くは環境保全や環境教育という現状にあります。

道民にとっての自然環境は、氷点下30度を下回る寒さや猛吹雪など、生きていく上で上手につきあっていくべき対象であるとともに、豊かな農水産物を育む源であり、貴重な観光資源でもあるなど、日々の生活や経済活動に極めて身近な存在で、影響度が強い要素と言えます。羅臼町の「知床学」や下川町の「森林共生型社会」などは、自然環境を中心に据えた持続可能な地域づくりの先駆例となっています。

こうした中、学校教育では、学習指導要領の趣旨を踏まえ、特にユネスコスクール50校（2019年3月18日現在）を中心に、ESDの取り組みが行われています。

北海道教育大学附属釧路中学校では、宿泊研修で訪れる長崎での学びを下級生に伝える座談会や「附中平和宣言」の採択など、戦争と平和の歴史を通して、これからの望ましい人間関係について考える平和学習に取り組んでいます。

また、旭川龍谷高校では、郷土部による研究活動として、「上川アイヌの世界観～カムイと共に生きる上川アイヌ～」を取りまとめるなど、環境保全や環境教育以外の観点からの取り組みも進められています。（参考：<https://bit.ly/2GNiXoP>）

さらに、社会教育においても、SDGsの達成へ貢献する観点から、2カ所の国立、6カ所の道立の青少年教育施設が「地域ESD活動推進拠点」に登録し、主催する事業の中で、ESDやSDGsをテーマとしたワークショップを取り入れるなどの取り組みを始めています。



北海道のアウトドア事業者を対象とした「北海道アウトドアフォーラム」でSDGsカードゲームを体験するワークショップ（国立日高青少年自然の家）



「四国の未来はここにある！」

四国地方担当理事 宇賀神 幸恵

四国にはESDに関する活動や教材、人材などの情報を収集・整理・発信し、地域のESD推進をサポートする「四国地方ESD活動支援センター（四国ESDセンター）」と、12の地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）があります。

四国ESDセンターではユースの支援に力を入れており、毎年テーマを定めて取り組み発表と交流会を行い、相互に学び合う機会を提供しています。今年度は「ユース世代等取組交流会～トビタテ！四国のローカルSDGs～」と題し、SDGsに関する取り組みを行う高校生を対象として開催しました。四国各県からオンラインで参加した高校生の発表はどれも大変興味深く、参加者から「四国だけでも多くの目標達成に向けた取り組みをしていて、とても驚いた」という声上がるほど内容の濃いものでした。

少子化の影響で統合が決まったものの、新しく校舎が建つ場所には絶滅危惧種の植物が生息していることがわかり、統合前の2校が協力して行った生態系保存の取り組み、父親の帰宅がいつも遅いことが気になり調査した県内の労働環境、

近所のパン屋さんから考える食品ロス、約90%が森で覆われる町で林業を起点とした地域づくり、伝統の土佐和紙の活用から見える企業や職人さんとの連携、「トビタテ！留学JAPAN」に参加して見つけた大切なこと等、どの発表も自分の身近に起こっていること、感じたことをテーマとし、それがどう地域の持続



ユース世代等取り組み交流会の様子
分校や島嶼部の高校もオンラインでつながることができました

可能性につながっているか、またSDGsのどの目標につながっているかを意識しながら、試行錯誤を繰り返している様子が伺えました。

「高校生が頑張っている」という、ただそれだけでも大人達にはキラキラと眩しく輝いて見えますが、その内容の多様性や今後の可能性に、「四国の未来はここにある！」ことを実感した一日となりました。この輝きが多くの人に伝わり、大きな輪となって広がっていくことを期待しています。

四国ESDセンターではこれからも四国のさまざまな学びをESDでつなぎつつ、新たに環境省の「地域循環共生圏」を視野に入れることで、より四国らしい地域の持続可能性を模索していきたいと考えています。



地域 ESD 拠点の一つ、株式会社平野・平野みらい薬局の入り口 SDGsのロゴが入っています！

「北九州市より ESD だより」

九州地方担当理事 三宅 博之

福岡県の県南にあたる筑後地方は、今年の7月7日、まさに七夕の日に豪雨となりました。その結果、大牟田、みやま、柳川、久留米市といった地域は軒並み土砂災害や河川氾濫による浸水被害にあいました。福岡県だけでなく、南隣の熊本県の人吉市を流れる球磨川の氾濫も甚大な被害を出しました。被災された方々が一日でも早く元の生活を取り戻せるように心からお祈りする次第です。RCE北九州である北九州ESD協議会では、復興に役立ててほしいと会員の皆さまから寄付を募り、RCE大牟田に手渡しました。

北九州ESD協議会の事務局があり、平日のみならず週末も市民や学生の集まりの場であった「まなびとESDステーション」は4月9日から6月18日までの間、コロナ禍の影響で閉館を余儀なくされ、6月19日からようやく週5日間の開館を再開しました。このような状況下でも、ESDを追求すべく、今できることを行ってきました。ここでは、2つの取り組み「SDGs図書コーナー作り」と神崎智子（かんだきさとこ）さんのオンライン講演を紹介いたします。

市民がSDGsを自ら学習できるように、会員の皆でSDGsに関連する図書を選んで、SDGs関連図書コーナーを設置しました（下記写真）。アジア太平洋地区RCE遠隔会議で発表したところ、かなりの反響がありました。しかし、ただ図書を陳列してだけでは誰も借りて読まないことも考えられます。今後は、それらの図書を実質的に活用してもらうためにいかなる工夫が必要かを考えていく予定です。皆さんの中で、グッド・アイデアがあれば、北九州ESD協議会事務局にご連絡ください。

(<https://www.k-esd.jp/k-esd/>)



SDGs 図書コーナー

さらに、9月24日に福岡県男女共同参画センター「あすばる」センター長・神崎智子さんによる「青空がほしい～北九州市公害克服の歴史を学ぶ～」のオンライン講演会を行いました。神崎さんは元北九州市役所職員であり、在職中に大学院に通われ、北九州市の公害克服の歴史を博士論文としてまとめられました。同運動の成功の要件として、リーダー、ファシリテーター、目的の共有、説得力、団体の力、アピール力、企業の技術革新、影響力のある人との連携といった項目を挙げ、分析されていました。きちんとした聞き取り調査を踏まえての発表は、ESDを促進する上で何が必要かを示唆していました。

現在、次期北九州ESDアクションプランを作成していますが、その中には私たちが講演から何を学んだのかが反映されることでしょう。

青空がほしい
～北九州市公害克服の歴史を学ぶ～

神崎智子（かんだきさとこ）氏
福岡県男女共同参画センター「あすばる」センター長

日時 2020年9月24日（木）
17:00～18:30

参加料 無料 | 参加費 別途あり

主催 北九州ESD協議会 人材育成・発信プロジェクト



SDGs 図書館大作戦のワークショップの様子
SDGs 図書コーナー及び SDGs 眼鏡は原賀いずみさんの考案です。



「SDGs 眼鏡」

フォトランゲージの際、SDGs 眼鏡をかけ覗き込み、写真に表れている光景（問題）が何番の目標に関係しているかを考える小道具



「未来につなぐふるさと基金」市民参加型プログラム（3回シリーズ）

オンラインワークショップのお知らせ



第2回

「どんなことができる？安全・安心なファミリーレストラン」

2020年11月7日（土）

14:00～16:00



ファミリーレストランは、どこも同じと思っていませんか？お客様に提供する食材の安全は、勿論のこと、生産地の生物多様性の向上を考慮し、企業の社会貢献と食材の調達を一体に捉えて実践している、そんなファミリーレストランが、案外身近なところにあります。

（株）アレフ エコチーム／環境教育企画・制作ご担当の高木あかねさんをお招きして、身近な食材を題材にワークショップ形式で私たちの暮らしと「食」について考えを深めます。

第3回

「甘いバナナの苦い現実」

2020年12月5日（土）

14:00～16:30



石井正子（編）『甘いバナナの苦い現実』（コモンズ、2020年）表紙

皆さんの食卓に頻繁にのぼる、手ごろな果物とは何でしょうか。この問いに多くの人が「バナナ」と答えるのではないのでしょうか。なぜバナナは安く販売することが出来るのか、またどんな人達が、どんな思いで育てているのかを消費者である多くの日本人は知りません。

立教大学異文化コミュニケーション学部教授・石井正子さんをお招きして、甘くて美味しいバナナにまつわる苦い現実を紐解いてみましょう。“他者にリスクを押し付けないライフスタイルとは何か”について考えるワークショップです。



国際コラム：SDGsの危機

～国連総会での国連事務総長演説から～

国際情報担当 鈴木 克徳/牧野 朝香

第75回国連総会が9月中旬から始まりました。国連創設75周年の記念すべき総会ですが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的大流行により、各国首脳の演説がオンラインで行われる等、異例の総会となりました。グテーレス国連事務総長は、その演説の中で、COVID-19がもたらした前代未聞の危機への世界的な協力の必要性を訴えました。

COVID-19は私たちの世界の脆弱さを露呈し、不平等の高まりや深刻な気候危機への対応の遅れ、社会的な分断の拡大、腐敗の蔓延などを招きました。貧困は30年ぶりに増大し、人間開発指標は悪化しています。私たちは75年前に国連を創設した時と同じような状況に直面しているとし、直ちに紛争を停止するとともに、新たなグローバルな取り決めの検討、COVID-19の世界的大流行の克服に向けた世界の連帯の必要性を訴えています。

今回の国連総会では、SDGsの後退という危機的な状況を踏まえ、その達成に向けた様々な活動が行われています。ESD-Jは関係する議論の発信に努めたいと考えています。

グテーレス国連事務総長演説（和訳）：<https://bit.ly/30JPbYX>



持続可能な社会のための 人材育成(=ESD)

毎月第4土曜日開催 13:00～15:00

今年度はESD-J理事を中心に、ESD/SDGsの活動の実践やESD/SDGsをどのように自分事として落としこむかのヒントをお伝えします。参加者の皆様とのディスカッションを中心としたセミナーです。

【第1回】

11月28日 「ESD/SDGsって何でしょう？（入門編）」

講師：重 政子・鈴木 克徳

【第2回】

12月26日 自治体とESD/SDGs

講師：阿部 治・池田 満之

【第3回】

1月23日 企業とESD/SDGs

講師：福井 光彦・ゲスト(企業関係者)

【第4回】

2月27日 地域づくりのESD/SDGs

講師：小金澤 孝昭・大島 順子

【第5回】

3月27日 教育現場におけるESD/SDGs

講師：中田 和彦・小玉 敏也

- オンラインワークショップ・セミナーは参加費無料です。
- イベント詳細・お申込方法は当団体ウェブサイトをご覧ください。お申し込みをお待ちしています！



◆編集後記

今年6月の車座トークに国際自然保護連合日本委員会会長の渡辺綱男さんをお招きして生物多様性条約とその取り組みについてのお話を伺いました。その際、2020年は愛知目標の達成年であり、次の10年に向けた「生物多様性国家戦略」の見直しがあるのでNGOの意見を聞く過程があると教えて頂きました。そこで、ESD-Jは市民団体の意見をとりまとめ、環境省に対して連盟で「生物多様性国家戦略への提言書」を提出しました。提言書は当団体ウェブサイトに掲載しておりますのでご覧ください。

特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 201 T:03-5834-2061 F:03-5834-2062

会員募集中：正会員（10,000円）、準会員（3,000円）詳しくはWEBサイトをご覧ください

